

真宗大谷派（東本願寺）天満別院

2021/4/1

No.677

大阪市北区東天満 1-8-26
06-6351-3535
http://www.tenma-betsuin.jp
代表者 輪番・武宮 信勝

Shinran
50th
8800th

ROKUJIJO



念仏者の誕生

「害」から「碍」へ

武宮 信勝

「色とりどりのチューリップ」 (撮影者 西松 薫)

例年より二週間も早い桜の開花。春爛漫の中、惜別と新たな出遇いの行きかう新年度を迎えました。当別院も終息の見えない中、教化テーマ「コロナ禍社会における人間性（信心）の回復」を願って、あらたな歩みを始めます。

最近、国の文化審議会国語分科会で、「障害者」の「害」を「碍」として、常用するか否か審議されていることを耳にしました。なぜ審議されるようになったのかは障害者団体の方々から、「害」は害虫、害悪の害。そのように言われるのは嫌だ」と声が上がったことや、津久井やまゆり園の事件が大きな要因と聞く。国会議員、立憲の川内博史氏によると戦中以前は「碍」が法制化されていたが1949年の「身体障害者福祉法」から今の「害」になったという。その前年1948年には「優生保護法」が制定され、障害がある人が生まれないように排除する法律が全会一致成立したこと事態が悪法であると指摘する。

私は、賛成の声を上げたい。「障害者」と呼ばれている方はもとより、家族をはじめたくさんの人々が「障害者」ということで、苦悩の人生を生きてこられたでありましょう。「碍」は「礙」の俗字。語意は「石を前にして人が立ちつくすさまから、さまたげる。さえぎる」（漢和辞典）とある。宗祖親鸞聖人は、「念仏者は無碍の一道なり。信心の行者には、天神地祇も敬伏し、魔界外道も障碍することなし。」「歎異抄」と仰せになっておられます。さまたげはあっても、そのことが機縁となってさまたげにはならない歩みが始まる。その身の事実が目覚め、領いて生きる人が「念仏者」と言われるのでありましょう。

法要・行事予定

4 月		
5 日	同朋の会	(14 時)
12 日	一如上人御祥月御命日 闍如上人御祥月御逮夜・常永代経	(8 時) (14 時)
13 日	闍如上人御祥月御命日 兼日中	(8 時)
14 日	琢如上人御祥月御命日	(8 時)
24 日	綽如上人御祥月御命日 定例法話 松尾 華香師 (第12組 専立寺) 「日常に活かせる心理学」	(8 時) (13 時30 分)
27 日	宗祖聖人御逮夜	(14 時)
28 日	宗祖聖人御命日 兼日中 法話：輪番 武宮 信勝	(8 時)

※ 諸行事につきましては、感染状況をみて判断致します。

5 月		
12 日	闍如上人御逮夜・常永代経	(14 時)
13 日	闍如上人御命日 兼日中	(8 時)
15 日	天満別院合唱団「みのり」(※状況判断)	
22 日	常如上人御祥月御命日	(8 時)
24 日	定例法話 沼田 和隆師 (第15組 大長寺)	(13 時30 分)
27 日	宗祖聖人御逮夜	(14 時)
28 日	宗祖聖人御命日 兼日中 法話：輪番 武宮 信勝	(8 時)



告知

太閤園に行きましょう！



別院同朋の会は、従来までは御講師を招いておりましたが、今年度からは、職員を中心に取り組んでいきます。誰もが参加しやすい方途として、おしゃべり会やフィールドワーク等を考えています。4月は左記の通り開催致します。皆様ぜひ、お越しください。

記

日時 4月5日(月) 14時
集合場所 天満別院 本堂
活動内容 太閤園散策、
現地にてお茶。



今月の伝道掲示板

悲しみは悲しみを知る
悲しみに救われ、
涙は涙にそそがれる
涙にたすけらる。

— 金子 大榮 —

編集後記

最近「音り」と書いて「たより」と読むと知りました。阿弥陀さまの光明（はたらき）は、私たちのもとに届くのは光の姿ではなく「南無阿弥陀仏」という音・声で届きます。手紙の「たより」をいただいたら返事をするように、阿弥陀さまからの「南無阿弥陀仏」という「たより」にはしっかりと「南無阿弥陀仏」と返事をするこの大事さを改めて考えさせられました。

(I)

本山（東本願寺）御用達

(株) 平安法衣店

〒600-8153
京都市下京区東町本願寺大門前
電話 (075)-351-3681
FAX (075)-351-5563

おかげさまで創業120余年
あなたの街の石やさん

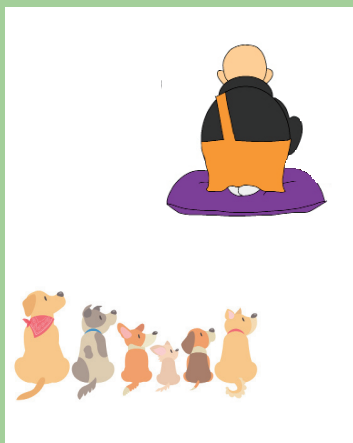
株式会社 太田石材店

～仏事その他何なりとお気軽にご相談ください～

フリーダイヤル 0120-305-075

本社
〒536-0001 大阪市城東区古市1丁目23番20号
TEL 06-6930-5075 FAX 06-6930-5078

ペットにお経を上げてほしい！



答え

外出自粛生活以来、ペットと居る時間が増えて、以前より甘えてくるようになった、とよく聞きます。しかしペットといえども、よい時ばかりではなく老病死をかわかえて生きている身であります。時には病気になる動物病院へ通ったり、加齢により足腰が弱り介護が必要になり、そしてやがて死に往く姿は、まさに人間と同じであります。

ペットは家族の一員であるという考え方は否めないでしょう。亡くなれば心情的には見送りの儀式とお経の一つでも上げてあげたい気持ちになるものです。しかし仏教の教えからはペット

にお経を上げる必要はありません。何故なら動物は自ら死を選ぶことはありません。自然に生きぬいてこの世の縁が尽きたら死に往くだけです。

お経を聞くべきはむしろ人間の方です。人間は与えられた人生に對して文句を言ったり愚痴ったり、傷ついたり、自ら命を絶ったりするので。人間だけが迷い苦悩する生き物であるから、お経の教えが必要なのです。お経は、人生の指南書です。

大切なペットであるはずなのに、都合の良い時には可愛がり、思い通りにならないと虐待をしたり、手に負えなくなつて捨てる、と言うことも聞きます。

こんな人間こそ、お経を聞かねばなりません。

僧侶側も一方的に「ペットにお経は上げません！」と断るのではなく、上げてあげたいという気持ちを持って、お釈迦さまが言わんとしていることを話してあげてください。

（第13組 心願寺 松井 聰）

報告



新年度 別院教化テーマ

2021年度を迎えるにあたり、教化委員会の皆様の御承認を得て、左記の通りのテーマと主な施策を掲げました。

記

テーマ コロナ禍社会における人間性（信心）の回復

（主な教化事業方針）

- 1、報恩講のオンライン配信。
 - 2、定例法話を年に6回開催。
 - 3、別院同朋の会を再開。
 - 4、別院合唱団「みのり」再開。
 - 5、別院子ども花まつり。
 - 6、別院機関紙「六字城」の充実。
 - 7、中・長期事業検討委員会の推進。
- 向後20～30年後を見据えて別院運営の健全化を図りたい。

感染状況を注視して活動して参ります。ご門徒・崇敬寺院の皆様のご協力をお願い申し上げます。

通常院議会 議決事項

去る3月25日（木）に通常院議会が開催され、左記の通り議案の審議が行なわれました。

記

- ・2020年度経常部歳入歳出 補正予算書（案）について
 - ・2020年度事業部歳入歳出 補正予算書（案）について
 - ・2021年度事業計画（案）及び経常部歳入歳出 予算書（案）について
 - ・2021年度事業部歳入歳出 予算書（案）について
 - ・その他（報告事項）
- 全議案、全会一致で可決承認されましたことをご報告致します。
- また詳細につきましては、別院にお問い合わせください。



仏前結婚式

去る2月23日（火）、天満別院において岡本学様、山添理予様の仏前結婚式を執り行いました。ご結婚おめでとうございます。



別院では仏前結婚式を随時受付けております。

真宗の結婚式は、阿弥陀如来の尊前で、誠に深い因縁によって遇う事の出来たお二人が、その一生を共に生きていこうと誓いをたてあう厳粛な儀式です。

寺院関係の皆様だけでなく、ご門徒の方々の挙式も御遠慮なくお申し込みください。ご相談、下見等のお問い合わせは寺務所までご連絡ください。

東日本大震災犠牲者追弔会

別院では3月11日（木）、今年で発生から10年目の節目を迎えた東日本大震災犠牲者追弔会が勤修されました。

輪番からは、「東日本大震災で息子さんを亡くした母親が、今も、息子さんの食事をテーブルに用意している」と報じられた。私はそれを聞いたとき、どう感じただろうか。一つ言えることは、『人は去りても面影は去らず』とあるが如く、母親の中では、息子さんが今もなお、生きておって、母と共にあるということでしょうか。胸底に刻まれている恩愛の絆を感じました。いついつまでも、亡き人は、一人の母に生きている。」というお話をいただきました。



春季彼岸会 勤修



去る3月20日（土）、春季彼岸会並総永代経法要が勤修されました。御講師には、第13組即念寺住職 洲崎 善範師、弾き語り 角谷 早音美さんをお招きし、2023年の慶讃法要テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」を講題に、音楽法話をいただきました。

ご法話の始めには慶讃法要テーマソング「今日も明日も あなたもわたしも」の演奏があり、本堂内がピアノの音と角谷さんの歌声でしっとりと包まれました。

洲崎師からは、「私たちは、父

母が出会ったことが縁で生まれてきたと思っています。善導大師は『すでに身を受けんと欲するに、自の業識を以て内因となし、父母の精血を外縁と為す』と言われた。それは、私たちは自らが生まれたいと願って、この世に生をうけたのであって、父母はそれをお助けくれた外縁であるということなのです。生まれてくるときに何一つ条件を選べない私たち。どうして生まれたかと思って生まれてきたと言えるのか。このことを『自覚』×『問題』のパネルを通して熱く語られました。

角谷さんには、法話に合わせた弾き語りがあり、時には曲に合わせ、洲崎師が詩を読まれたりと、様々な形で演奏されました。

洲崎師は「音楽がない人生はないといわれるように、宗教がない人生はない」ということを伝えたくて音楽法話をされています。

この日は、35名を超える多くの方々にご参拝いただき、昨年7月以来の御講師を招いてのご法話でした。聴聞されていた方は皆穏やかに、どこか充実感に満ちた表情をされていました。